

人生の書『共産主義における「左翼」小児病』に学ぶ

第11回

四国ブロック

危機的な時に必ず裏切る勢力との妥協と対立

司会 (吉田) …前回で本編の学習は終了しました。ここからは、「追加」として、全世界の帝国主義者達が、プロレタリア革命に仕返しをするために、略奪と封鎖を続けているなかで、本編の出版が終わる前に外国から追加の資料が手に入ったとして補足的に書かれたものです。

で質問のある方はお願いします。

まさに大衆学習運動の必要性

岸本…135ページ中段辺りの「共産党が実際に、革命的な階級、プロレタリアートの前衛となり、先頭部隊になる」とのぞむなら、また、プロレタリア的な大衆だけではなく、非プロレタリア的な、勤労被搾取者大衆をひろく指導する方法をまなびたいなら、都市の工場「街」にとつても、農村にとつても、もつとも近づきやすい、もつともわかりやすい、またきわめてはつきりした、いきいきとしたやりかたで、宣伝、組織、煽動ができればならない。」とあります。これは具体的にどのようなやり方が良いのかわかれば教えてほしいです。

井角…いわゆる労働者の置かれている現状や実態を、彼ら一人ひとりに寄り添って聞き、ともに学び考えていくということではないでしょうか。

【追加】

一、ドイツ共産主義者の分裂

司会 (吉田) …追加の二、三のレポートは香川県協の井角さんです。ここ

でも、もつとも近づきやすい、もつともわかりやすい、またきわめてはつきりした、いきいきとしたやりかたで、宣伝、組織、煽動ができればならない。」とあります。これは具体的にどのようなやり方が良いのかわかれば教えてほしいです。

司会 (吉田) …これまでの学習で学んできましたが、レーニン機関紙を使ったりだとか、党のしつかりとした綱領を定めて、それぞれ一人ひとりの党員がそれをしつかりと理解し、各地に

## ◆ みんなの学習講座



悩みながらも、仲間の疑問に答える香川県協の  
井角さん

入っていき広めていくというやり方を  
してきました。ただ中央であれこれ言  
うだけではなく、街の工場や農村に入  
っていつて宣伝、組織、煽動していく  
ことが必要だということだと思えます。  
岸本…ここにもあるように、時には否  
定「一本槍」が大衆にうける時もある  
けれども、単純にそうではなくて、状  
況に合わせて使い分ける必要性があり  
ますね。

司会（吉田）…言い方を変えると身近

な大衆のなかに恐れずに入っていくと  
いうことかもしれませんね。昔は選挙  
の時には、自分たちの支持する候補者  
の思想を広めるために、各家庭に入っ  
ていつて話し込むということを先輩に  
強く教え込まれましたが、今はポステ  
ィングが中心で、家まで入っていくこ  
とはありません。何かこれではいかん  
ということをしてレーニンに言われている  
ようですね。

井角…実際に大衆に入っていくことも  
そうですが、こちら側もしっかりと学  
習してわかりやすく伝えていける努力  
が必要ですね。

### 分裂への流れ

司会（吉田）…レポーターとしては、  
この節でレーニンは何を言いたかった  
と思いますか。

井角…ドイツ社会民主党のなかにも

様々な考え方がありますが、階級的な  
闘争を行う党を残すためには分裂もや  
むを得ないというのが重要かと思いま  
す。中心にいるカウツキーは多数派だ  
が、彼らではダメだということで、ス  
パルタクス団を結成しながら、そのな  
かで主張をしていきます。レーニンは  
カール・リープクネヒトやローザ・ル  
クセンブルクなど優れた指導者とも  
にドイツ共産党をつくり上げていきま  
す。

須藤…なぜドイツ共産主義者が分裂し  
ていったのかをおさえておく必要があ  
ります。1914年に第一次世界大戦  
が起こりますが、それまではドイツ社  
会民主党の自称マルクス主義者たちは  
第二インターナショナルの主要メンバ  
ーでした。ところがいざ戦争に突入し  
た際に、その社会主義者と言われてい  
た人たちは祖国防衛に走り、戦争予算  
に賛成していきました。そこで戦争予  
算反対であるマルクス主義との対立が



## スパルタクス団の機関紙

『ローテ・ファーネ（赤旗）』のドイツ語版

生まれてくるのです。「万国の労働者団結せよ！」のインターナショナルはこうして変質化し、祖国防衛、民族独立、社会排外主義へと進みます。彼らカウツキから中央派がドイツ独立社会民主党をつくっていくのです。彼らは非常に日和見主義的で、政権にすり寄っていく弱さを持っていました。それに対してのが、スパルタクス団という少数派ですが、後のドイツ共産党になっけていきます。一方左翼と言われる

人たちも共産主義労働者党をつくりこちらも戦争予算には反対しますが、客観的情勢を見ないということもあり問題をはらんでいきました。分裂というのはそういうことがあったということと、この第一節では主にドイツ独立社会民主党との対立について書かれています。

### たたかいが糧になる

三木…134ページ中ごろの、「ロシアではプロレタリアートの独裁をめざす直接的な大衆闘争がおこるずっと以前から、ボリシエヴィキが15年にわたってメンシエヴィキに反対し、「左翼」に反対して、系統的に、徹底的に闘争をおこなったが、これはボリシエヴィキにとつて非常なしあわせであった。」とあります。この系統的に、徹底的にというのはどういった闘争だったのか。また、次にある「ヨーロッパとアメリカでは、現在これと同じ仕事

を『強行軍』でおこなわなければならない」とあります。この同じ仕事というのは何なのか教えてください。

司会（吉田）…ロシアではボリシエヴィキがメンシエヴィキ、いわゆる日和見主義と闘争を行ってきました。そしてこの闘争を非常に幸せであったと言っています。つまりこの闘争によってボリシエヴィキも鍛えられ成長したのだと思います。そしてこの闘争は15年に渡りました。こういった闘争をヨーロッパやアメリカではまさに時間をあまりかけずに強行的に進める必要があるということではないでしょうか。須藤…まず前段として、1903年にロシア社会主義労働党が第2回大会で党の捉え方をめぐってボリシエヴィキとメンシエヴィキに分かれました。それから闘争を行い続けて1917年の革命までが15年で、非常にその経験は有意義だったということです。ヨーロッパやアメリカはまだそのような状

## ◆ みんなの学習講座

況になかったものの、階級闘争の問題が出てきて緊急に革命に向けて取り組む必要があるということ。そこで問題は、レーニンがやってきたように問題の真正面から地道な活動を取り続けることが結局は勝利に繋がるのだと言っています。もちろん詳細は本文からは読み取れませんが、歴史的な流れはそのような感しです。

### 分裂は正しいのか？

村田…133ページの中ほどで、「左翼」すなわち反議会派の分裂が、国際的な現象になるおそれがある。「中央派」も同じ。なるようにしておけばよい。いずれにしても分裂の方が混乱よりはましである、とありますが、どういう意味でしょうか。

須藤…何でも分裂すれば良いというのではなくて、歴史的な客観的な情勢のなかで、結果的にその方が良かったと

レーニンは言ったということですね。この時代でいうと、党派が分かれているにもかかわらず同じところにいる方がかえって混乱するだけだと。かつて日本社会党が左派と右派に分かれた時に、左派社会党は「左社綱領」というマルクス主義綱領をつくって、選挙でも支持を得て議員がぐっと増えました。ところが1955年に左右社会党が統一して日本社会党として「統一綱領」

ができる、マルクス主義ではなくていまいなものになり、社会党には左から右まで幅広い思想が包含され、いわば混乱を持ち込んだ形になりました。そういう意味では内部で混乱してごちゃごちゃするぐらいなら、はっきりと分かれた方が良いということになります。あくまでそういった事情があるなかでの分裂がよりましだということですね。左派は議会ポイコットと格好の良いことを言いますが、本当にそれでいいのかという問題があります。独立

派の日和見主義者を非難しますが、独立社会民主党を支持する大衆も多いわけで、簡単に排除するわけにもいけません。共産主義者の意見を拡げていくためには、問題はありながらも支持が多い彼らとも妥協をしながら正しい運動を追求していくことが必要です。

司会 (吉田)…それでは次に進みますよう。

### 二、ドイツの共産主義者と独立派

#### 情勢に合わせた、たたかいを

司会 (吉田)…それでは第二節に入ります。疑問点はありませんか。

東口…136ページの半ばにあります。この戦術は基本的に正しいけれども、次の点を見逃すべきにはいかないかとして、社会主義の裏切者の政府を共

産党としては「社会主義的」と呼ぶべきではなく、またカウツキー等の一派の党が小ブルジョアのⅡ民主主義的な党であるとき、「ブルジョアのⅡ資本主義的諸政党」を除くなどというべきではなく等々と書かれています。つまりはどういうことでしょうか。

井角：裏切者だといっても完全に排除してしまうのはダメだということだと思います。

司会（吉田）：排除するというべきではなく、声明の第四節のようなことを書くべきではないということで、その声明とは何かということですね。その第四節には、「プロレタリア大衆をさらに共産主義の側に獲得するために特に重要なのは、政治的な自由が無制限に利用できる、ブルジョア民主主義が資本の独裁の役割を果たせないような情勢である」と書かれています。そしてレーニンはそのような情勢はあり得ないと言っているのです。

東口：その声明は、136ページ冒頭

にある、ドイツ共産党中央委員会機関紙『赤旗』第32号に掲載された、カツプ・リュトヴィツの軍事的「二揆」と「社会主義政府」との問題についての声明ですね。これ自体はレーニンも根本的な前提や実践的な結論から見ても正しいと言っています。ただ、どうすればよいのか結論がよくわかりません。須藤：プロレタリアート独裁を目指してはいるけれども、共産主義者は現時点でその力はないということでしょうね。むしろ日和見主義者である独立社会民主党の方が大衆から支持されている状況のなかで、どう判断すべきかということですね。明らかにカウツキーらの独立派は間違っているが、だからといって単に排除するのではなく、その向こうにいる大衆を意識してある程度妥協をしながら、運動を拓げていく。今はその戦術を取ることが正しいということですね。

運動に真剣なのは同じだが

司会（吉田）：では少し先に進めましょう。138ページの最後のところが重要ではないかと思われれます。「共産主義者に宗旨がえしたハンガリアの社会民主主義者が、臆病と無定見から、ハンガリアのソビエト権力の状態を絶望的なものと考え、協商国の資本家や協商国の死刑執行人の手先たちのまえですすり泣きをはじめたときにも、彼らはプロレタリアートを『たすける』つもりだったのだ。」ということですね。結局は第一次世界大戦ではイギリス、フランス、ロシア等の協商国、いわゆる資本家側に泣きついて、それでも彼らはプロレタリアートを助けるつもりだったと。何かおかしいですね。

兼廣：結局は放っておけば自分からボロを出すような感じですね。  
東口：プロレタリアートを助けようとはするけれども、結果は裏切ること

## ◆ みんなの学習講座

なるということでしょうか。

**司会 (吉田)** … 社会民主主義者にとつては労働者を助けることが資本家になびくことなのでは。

**東口** … 裏切るのはまさにそうなのですが、彼らは自分たちでそれが悪手だと気づいていないだけで、至って真剣に労働者のことを思つて運動をしているのではないのでしょうか。結果的に危機的状况に陥つた時に彼らは資本家にすり寄る手立てしかないのでしょうか。それが彼らの方向性であつて、明らかに間違つている道なのですが、彼らはあくまでその運動を最良だと信じているし、労働者のためにやっているのだと思ひます。

**須藤** … この本文自体は第一次世界大戦の頃が書かれています。第一次世界大戦は連合国と中央同盟国とのたたかいであり、中央同盟国というのはドイツやイタリア、オーストリア。連合国というのは協商国、三国協商と呼ばれる

ロシア帝国とフランス、グレートブリテンいわゆるイギリスです。そこに対して涙を流してすり寄ると。本人たちは労働者を守ると真剣に思つていたかもしれないませんが、結果的に裏切ることになつてしまつている。いわゆるそれに対する皮肉を込めた言い方ですね。

### 三、イタリアのトゥラティ派

#### イタリア社会党の誤り

**司会 (吉田)** … 続いて第二節です。ここでは、イタリア社会党のトゥラティのインタビュウから、イギリスのブルジョア自由主義的新聞の通信員が、同志ボルティガと『ソビエト』紙の彼の仲間たちの正しさを立派に裏書きするという、トゥラティ一派の諸君によけいなおせっかいをしめたことが書かれています。

**東口** … トウラティ自身とイタリアにおけるブルジョア的な擁護者等々が、ひた隠しにしていた真相とありますね。彼はイタリアの社会主義者ですが、改良主義的指導者であり、ソビエトは、勤労階級に期待を持たせておく程度で実践の役に立たない運動をやつているとして、労働の規律こそが秩序と幸福を回復できると言つていますね。

**竹内** … 厳しい実態であるからこそ労働者は日常闘争やストをやつていのに、規律よく資本家のために働くことこそが良くなるとはひどい言いぐさですね。  
**司会 (吉田)** … レーニンも社会的な裏切りだと断じてますね。賃金奴隷制のなかで資本家を太らせるために働いている労働者にとつて、秩序と規律を擁護する値打ちはないと。大衆はソビエト権力を支持しており、自然な成長としてのストライキの革命的な役割を理解できないとは、低級なブルジョア的だ。次回は追加の後半を議論します。